

平成26年度 決算のご報告

納付金の負担減少で、
黒字決算となりました。

健康保険組合連合会が発表した全国の健康保険組合の平成27年度予算早期集計は、経常収支で1,429億円の赤字となり、赤字幅は縮小したものの高齢者医療制度創設以降、8年連続の赤字となる見込みです。

赤字幅の縮小は、標準報酬月額や賞与額の上昇や、保険料率引き上げによる保険料収入の増収によるところが大きいといえます。高齢者医療制度への支援金・納付金が組合財政を圧迫している状況は依然変わりません。

今後も団塊世代の高齢化に伴う高齢者医療費の増大や、後期高齢者支援金の総報酬割部分が28年度に3分の2、29年度は全面総報酬割に拡大されることにより、支援金・納付金負担がさらに重くなることは確実です。多くの健保組合の財政状況が限界に達しているなか、高齢者医療への負担軽減措置の必要性和、高齢者医療の負担構造改革を引き続き国に求めてまいります。

こうした状況の中、当健保組合の平成26年度決算がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

基礎数値

(平成27年3月現在)

被保険者数	男	2,028人
	女	767人
	合計	2,795人
平均標準報酬月額	442,038円	
総標準賞与額 (年間合計)	3,784,818千円	
被扶養者数	3,209人	

一般勘定（健康保険）

収入 ▶ 被保険者数・総標準賞与額の減による減収

収入面では、平均標準報酬月額が増額したものの、被保険者数・総標準賞与額が減少したため、保険料収入が前年度より2,528万円の減収となりました。

しかし、支出においても大幅な減少となったため、繰越金を繰り入れることなく、結果、16億5,195万円となりました。

支出 ▶ 保険給付費は増加するものの納付金が大幅に減少

医療費として支払われる保険給付費は、前年度より3,175万円増加しました。

しかし、組合財政を圧迫する主要因ともいえる納付金については、今年度、前期高齢者納付金の精算のもどりにより前年度より2億5,864万円の大幅減となり、保険料収入に占める割合も35.2%となりました。

保健事業につきましては、26年度も疾病予防や健康増進のための事業を可能な限り実施いたしました。

結果、平成26年度の収支差引額は2億746万円の黒字に、経常収支差引額においても1億9,741万円の黒字で終えることができました。

収入

単位：千円

保険料収入	1,613,005
国庫負担金収入・その他	460
調整保険料収入	24,854
国庫補助金収入	33
財政調整事業交付金	10,054
雑収入	3,545
収入総額	1,651,951
経常収入	1,617,043

支出

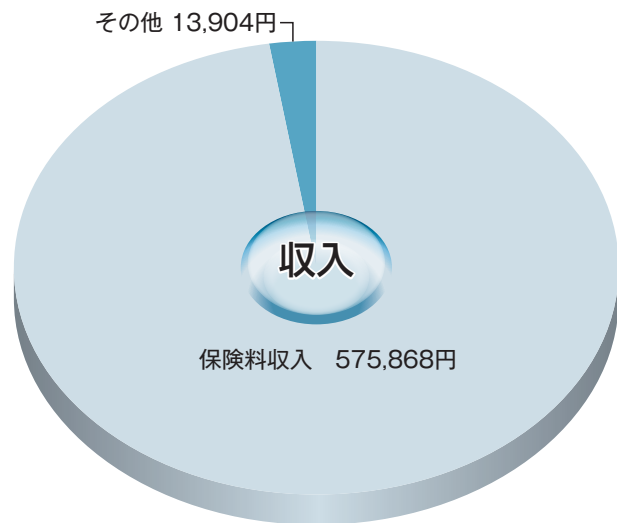
単位：千円

事務費	46,941
保険給付費	761,902
法定給付費	749,729
付加給付費	12,173
納付金	568,830
前期高齢者納付金	196,882
後期高齢者支援金	312,702
退職者給付拠出金	59,233
老人保健拠出金	13
保健事業費	41,051
財政調整事業拠出金	24,854
連合会費	906
その他	8
支出総額	1,444,492
経常支出	1,419,638

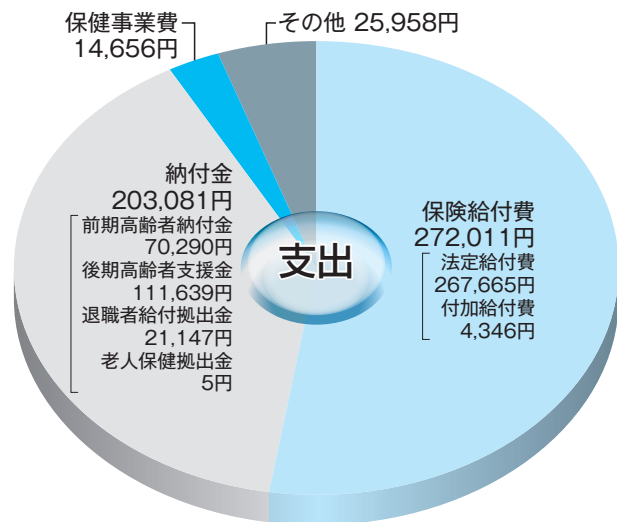
単位：千円

一般勘定収支差引額	207,459
経常収支差引額	197,405

1人当たりでみる一般勘定



収入総額 589,772円 経常収入 577,309円



支出総額 515,706円 経常支出 506,833円

経常収支差引額：70,476円

介護勘定（介護保険）

各市区町村が保険者として運営している介護保険の保険料徴収は、健康保険組合が代行して行っています。組合に加入する40歳以上64歳までの方々から、介護保険料として徴収した保険料はそのまま各市町村へ納めています。

平成26年度は介護保険収入が1億7,131万円、介護保険納付金が1億1,931万円となりました。繰越金より438万円の繰り入れとなりました。

収入

単位：千円

介護保険収入	171,313
繰越金	4,383
雑収入	2
合計	175,698

支出

単位：千円

介護納付金	119,309
合計	119,309
介護収支差引額	56,389